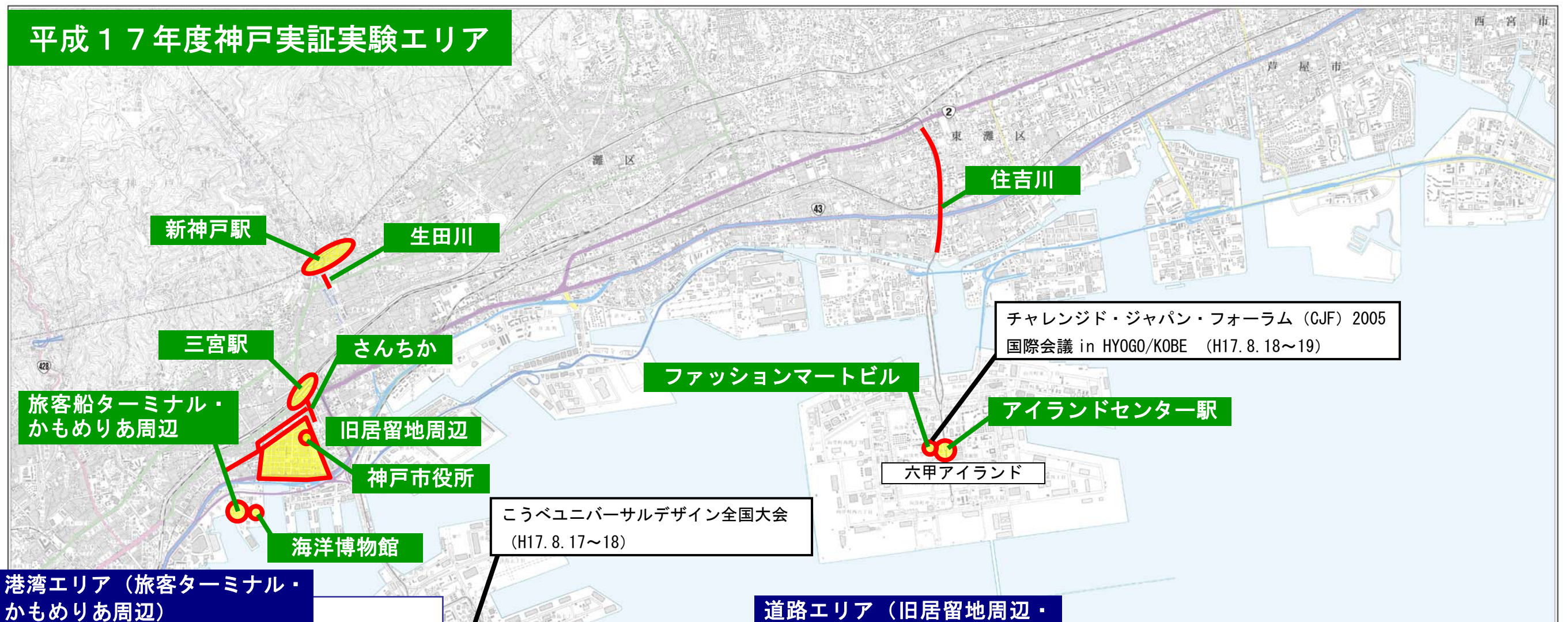
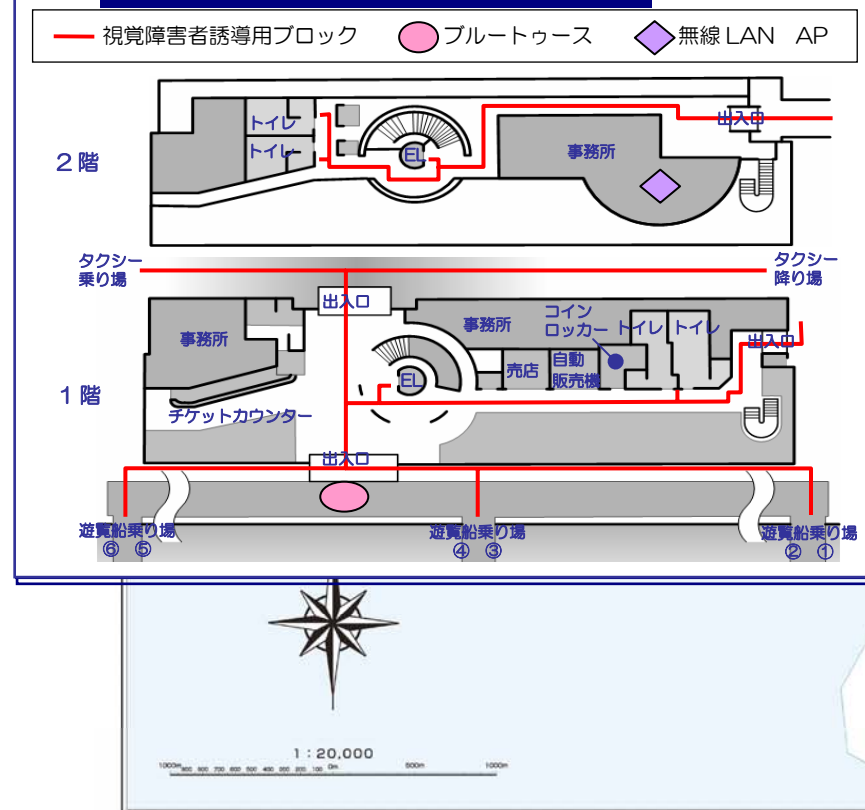


神戸実証実験
(H17年度第2期モニタ一調査)

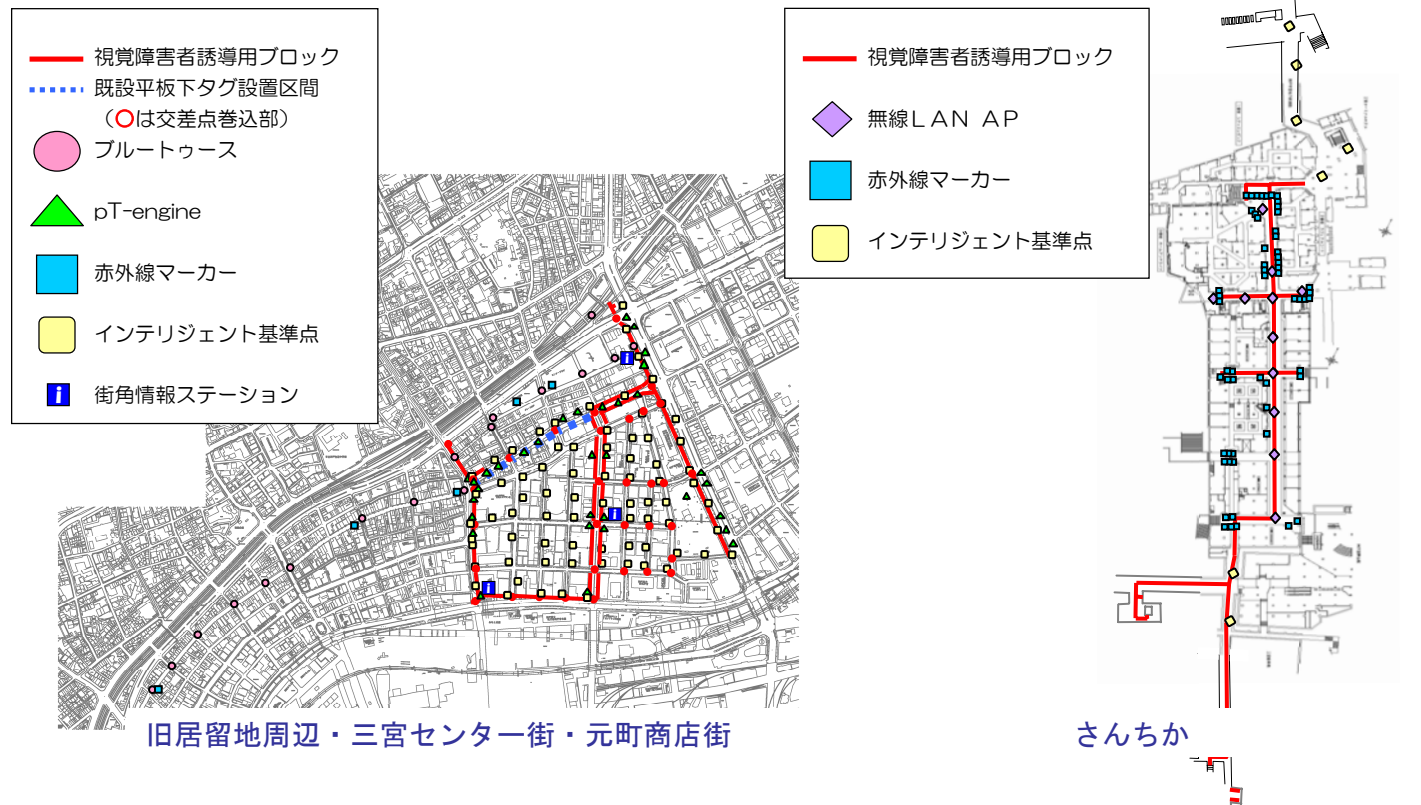
平成17年度神戸実証実験エリア



港湾エリア（旅客ターミナル・かもめりあ周辺）



道路エリア（旧居留地周辺・さんちか・商店街）





自律移動支援プロジェクト 神戸実証実験の内容〔サービス実験〕

第1期モニター調査

(STEP 1)

情報提供内容の適否をヒアリング



視覚障害者対象

検
証

(STEP 2)

情報提供内容を見直し、実地モニター調査



第2期モニター調査

視覚障害者

情報提供内容精査



対象の拡充

車いす使用者

バリアフリールート案内



外国人

多言語で情報提供



一般希望者 (健常者)

位置情報や施設情報





自律移動支援プロジェクト 神戸実証実験第2期の調査内容〔サービス実験〕

第2期モニター調査の概要

調査期間 : 2005年 11月 14日(月)～12月 9日(金)の平日 19日間
体験モニター数 : 道路・港湾エリア合計延べ198名
(視覚障害者 26名、車いす使用者 3名、外国人 3名、一般希望者 156名)

視覚障害者

- 目的地までの経路案内コンテンツに関する調査(目的地までの距離や方向を提供)
- 誘導用ブロック未敷設の場所での経路案内方法の検討(道路エリア)
- ビープ音のみ、あるいはビープ音の種類を変えた案内の有用性に関する調査 等

車いす使用者

- バリアフリールート of 経路案内手法に関する調査(ICタグ・マーカークラスを用いた現在地情報の提供)
- 周辺情報提供の有用性および手法に関する調査(無線マーカークラスにより周辺情報を提供)

外国人

- 施設、観光スポット、店舗情報を多言語により提供する有用性に関する調査(英・中・韓国語)

一般希望者(健常者)

- (主に)観光を目的とした方が必要とする情報内容および提供手法に関する調査
- 店舗・施設等の情報内容に関する満足度調査
- 「街角情報ステーション」の設置箇所の適切性に関する調査



自律移動支援プロジェクト 神戸実証実験第2期の調査結果〔サービス実験〕

		視覚障害者(26名)	車いす使用者(3名)	外国人(3名)	一般希望者(156名)
調査結果概要		✓「案内の内容は分かりやすかった」との意見を得、目的地までの距離・方向案内、および誘導用ブロック未敷設場所での経路案内の必要性が確認できた ✓「行き慣れた場所であれば問題ない」との意見を得、ビー音のみでの簡易な案内の有効性が確認できた	✓「必要な情報が入手できた」との意見を得、ICタグ・マーカ類を用いた現在地情報の提供の有効性が確認できた	✓ 提供した店舗・施設情報は高い満足度を得、多言語による情報提供の有効性が確認できた	✓ 有用性が特に高い情報は、「店舗」、「観光施設」、「休憩施設」、「交通機関」であった ✓ 提供した店舗・施設情報について、半数以上の満足度を得た ✓ 「街角情報ステーション」の適切な設置場所としては、「駅・バス停」、「主要交差点」等の意見を得た
実験中のモニターの「コメント」	体験して良かったという意見	● 参加のたびに意見が反映されていて嬉しかった。 ● 知らない町を一人で歩けるか試したい ● 行動範囲が広がる ● このシステムを使って散歩がしたい	● 自律移動支援システムが普及することで高齢化社会を迎える仕組み作りになると思う	● 初めて訪れる地では良い情報源となる ● 最新の情報技術に触れることができ勉強になった	● 知らない土地を観光するときに有効 ● 多言語での情報提供が可能なので、外国人を案内するときに有効
	機能に関するユーザの希望	◆ 音声案内の速度、音質等を自分で調整、選択できれば便利 ◆ 信号機との連動を希望 ◆ 振動による案内があれば便利	◆ 手や指に障害がある者にとっても使いやすい携帯端末機を希望	◆ ルート検索機能、店舗検索機能などがあれば便利	◆ 店舗情報などは近づく自動で情報提供される方が良い ◆ 機器やシステムの安定性の向上を望む ◆ 携帯電話等への展開を望む(サイズダウン等)
将来の利用意向		➢「是非利用したい+状況によっては利用したい」 =100%	➢「是非利用したい+状況によっては利用したい」 =67%	➢「是非利用したい」 =100%	➢「是非利用したい」 =82%